

学習活動 2:フォニックスを用いて

時間数:1時間

活動の流れ

Step1)まず、ハングルの字母とそれに対応するローマ字のカードを見せ、フォニックスを用いて子音の音を確認し、必要に応じて字母の名称*もあわせて提示する。

注:フォニックスとは、ここでは、ハングルの音(発音)の決まりのことを指す。ハングルの子音には、それぞれ呼び名がついていて、「ㄱ」は、「기역」(キヨツ)、「ㄷ」は、「디귿」(ティグツ)と呼ぶ。しかし、フォニックスで読むと「ㄱ」(グツ)、「ㄷ」(ドゥツ)というような音になり、これらの音が組み合わさって1つの文字や意味をもつ単語を発音することができるようになる。

例 1

ㄱ	/g/ /g/ /g/ /g/	*ㄱ	기역 /g/ /g/ /g/ /g/
		*	
		*	
		*	

*字母の名称もあわせて提示する場合

……以下、「ハングルローマ字対応表」の順に、提示する。ただし、ハングルの法則発見を容易にするために、「ハングルローマ字対応表」のうち、「ㄱ」は/g/、「ㄷ」は/d/、「ㅂ」は/b/、「ㅅ」は/j/として提示する。

Step2) Step1 では「ㄱ」は/g/、「ㄷ」は/d/、「ㅂ」は/b/、「ㅅ」は/j/として提示したが、ここでは、語頭にあっては「ㄱ」は/k/、「ㄷ」は/t/、「ㅂ」は/p/、「ㅅ」

は/ch/ともなることを提示する(例: 가구【kagu】)。以下のカードを見せ、フォニックスを用いて子音の音を確認し、必要に応じて字母の名称*もあわせて提示する。

例 2

ㄱ	/g/ /g/ /g/ /g/	*ㄱ	기역 /g/ /g/ /g/ /g/
ㄷ	/d/ /d/ /t/ /t/	*ㄷ	디귿 /d/ /d/ /t/ /t/
ㅂ	/b/ /b/ /p/ /p/	*ㅂ	비음 /b/ /b/ /p/ /p/
ㅅ	/j/ /j/ /ch/ /ch/	*ㅅ	지읒 /j/ /j/ /ch/ /ch/

*字母の名称もあわせて提示する場合

注:ハングルは、初声(子音)＋中声(母音)という構成のもの(例:마,다)のほか、初声(子音)＋中声(母音)＋終声(子音)という構成のもの(例:밭,닭)があるが、ㄱ、ㄷ、ㅂ、ㅅの音変化に対する理解を通じて、終声の音に関する説明を概ね代替することが可能となる。

Step3) Step1 において、ハングルローマ字対応表に基づいて、「ㄱ」は/k/、「ㄷ」は/t/、「ㅂ」は/p/、「ㅅ」は/ch/と対応していることを提示するが、ここで改めて取り上げ、それぞれ気を伴って(激しく)発音することを確認する。